

ヒマラヤの集い 2023 報告

日時：2023年3月21日（火・祝）13:30~15:00

会場：コンセーレ 小ホール

講師：日本山岳会理事・日本山岳会千葉県支部長 松田宏也氏

演題：グレート・ヒマラヤ・トラバース

コロナ禍により自粛していた「ヒマラヤの集い」は3年ぶり。講師はかねてより依頼していた松田宏也氏を今回やっとお招きできた。

講演はあの奇跡の生還から始まった。1982年、中国四川省ミニヤコンカ峰への登頂に挑戦したが、悪天候に阻まれ遭難。下山で行方不明となり19日後、体重は30kg代にまで減ったが、奇蹟的に地元農民に発見された。生還は遂げたものの、凍傷に侵され、両手指と両脚の膝下を切断。500日のリハビリテーションの末、社会復帰。

その後も切断障害を抱えた身で、丹沢、北アルプス、南アルプスでトレーニングし、1986年に厳冬の富士山に単独登頂、1988年に厳冬の北海道斜里岳に登頂（両足義足で斜里岳に山スキーと改造したピッケルを駆使しながら挑んだ「地球浪漫『山よ、友よ、僕はまた登る』」のDVDも講演中に視聴した）、1995年には小西政継氏らとシシヤパンマへ遠征するなど、現役で活躍を続け、JACの記念行事「グレート・ヒマラヤ・トラバース」の1stステージに、重廣恒夫氏、吉井修氏と共に参加した。

2020年2月29日に日本を発ち、山中40泊41日に及ぶ踏査を終え、5月15日に帰国するまでのお話を聞かせていただいた。キャラバン中の生活やロックダウンしたネパールの実情が紹介された。素晴らしい写真と飾らない人間性が感じられ90分の講演はあっという間だった。元ネパール大使の神長善次氏からの質疑もあった。参加者は18名だった。

講演後、関係者で講師と共に懇親会を開いた。



講演中の講師 松田宏也氏



講師を囲んで集合写真

(文責 猿山)